

万野である医療事業の強化  
・拡大のため、『ライフサ

価値製品の開発を進めてい  
く方針だ。

会場は東京・銀座の紙パ

任新会長を選出する。

『銀座のミツバチ』。いる市民団体、「銀座食  
の人に自然の大切さへ目取された『ハチミツ』は  
いま、マスメディア界学塾と「銀座の街研究  
で話題となっているとい会』を主宰する同氏が、れば…』と話が進んで、(うつわ)で50本にも達し  
う。銀座7丁目界隈のク偶然知り合ったのが、東田中氏が紙パ会館屋上へラブのチーママの話題で、養蜂の設置を仲間に提案、実はない…。

紙パ産業界の大本山、としても知られる藤原誠太氏。  
日本製紙連合会が所在する銀座紙パルプ会館の屋上に設置された『ミツバチの養蜂場』のハナシである。

## 『銀座のミツバチ』!!

紙パ会館屋上に養蜂場?

会館屋上に3月28日、

沖縄から運ばれたミツバチ3万匹が入った巣箱が3個設置された。

これを考案したのが紙パルプ会館総務部長の田中淳夫氏。銀座の街づくりや食文化を考えようと、夜の銀座を散策するメンバー13人でつくって

「銀座とミツバチとい

う意外な組合せが、都会

のユリの木、二重橋の養蜂場のひとつだ。

マロニエなどなど…。なんと設置後一週間経

ったある日、巣箱から採

設置されて以降、紙パ会館屋上へ現した。会館11階の屋上から、ミ約4km四方。この範囲内に設置される花は、皇居、浜離宮、二重橋の皇居、浜離宮、二重橋界わいの花が散るまでの5月までは紙パ会館屋上で飼い、その後はまた移動する予定だ。

「銀座がハチミツの产地になることは…。採れたハチミツを銀座の街と連

の屋上で、3年前から20万匹のミツバチが飼われていることを藤原氏から聞いたのがコトの始まりだ。その行先は皇居の桜(ソメイヨシノ)から

中淳夫氏。銀座の街づくり。勿論、これも藤原氏の楽しい企画の一つといけいして、この街ならではの注意を払う

地になることは…。採れたハチミツを銀座の街と連

れて飛び立つて行くとい

う。その行先は皇居の桜(ソメイヨシノ)から

したい」と田中氏。安全

には細心の注意を払う

のも忘れていない。

マロニエなどなど…。テレビ放映、新聞、ラジオなど取材依頼が殺到

しているという。